



令和元年度（2019）秋季地区予選

K（希望ヶ丘）	希望ヶ丘	武相	岸根	東	勝点	得失	順位
希望ヶ丘		3-5	4-2	14-9	6	5	2
武相	5-3		10-1	14-7	9	18	1
岸根	2-4	1-10		17-16	3	-10	3
東	9-14	7-14	16-17		0	-13	4

令和元年度（2019）秋季県大会

【1回戦】

9月7日 サーティーフォー保土ヶ谷球場

霧が丘 0 2 0 0 1 0 0 0 0 0 1 | 4

希望ヶ丘 0 0 0 0 0 0 0 3 0 0 0 | 3

(延長 12 回)



令和2年度（2020）春季地区予選 中止

令和2年度（2020）春季県大会 中止



令和2年度神奈川県高等学校野球大会

【2回戦】8月3日大和スタジアム

試合時間 2時間 42分

県相模原 0 0 3 2 1 0 3 10 | 19

希望ヶ丘 2 0 0 0 0 1 2 0 | 5

(県) 時岡、杉山-白井

(希) 田中、前田-大塚

▽三塁打 温品2、白井(県)

▽二塁打 浜口、温品、白井、大森(県) 古泉、田中、上家(希)

▽犠打 片岡、橋本、2、細野(県) 古泉、大塚、越智、栗原(希)

▽盗塁 温品2、菊地、(県)

▽失策 大森、温品(県) 古泉2、田中、磯川、栗原、高松(希)

私の高校野球生活3年間は正直やり切れなかった。

とりわけ私たちの夏は満足のいくものではなかった。満足いかなかったというのは、ミスが多かったとか打線が繋がらなかったとかいう技術的な理由ではない。その技術的な力を最大限出し切る機会がなかった。甲子園は開催されず、県大会は行われたがチアや吹奏楽部の応援もなし。神奈川県では親族の観戦すらも許されなかった。新型コロナウイルス拡大の影響である。甲子園の開催中止は100年を超える歴史の中、たったの3度だけである。要因は1915年の米騒動と41年の太平洋戦争の戦局拡大、そして2020年の新型コロナウイルスである。ここ70年では初めてのことだ。もちろん、私たちの実力で甲子園に出場できるとは夢にも思っていないが全高校球児が憧れる場所であるのは間違いない。たとえ実力が足りず出場できないとしてもそれが開催されなくていいという理由にはならないし、試合に臨むモチベーションに少なからず関わる。加えて、私がとても残念に思ったのは無観客での試合開催という点だ。そもそも私たちの代は春大会も開催されていない。その鬱憤を晴らすことも含めて3年間の集大成を家族や友人に見てもらいたいと思っていたにも関わらず、無観客での開催が決定してしまった。

夏の大会の概要が決まり私に先生から連絡がきたとき、先ほど述べたように例年通りの概要ではなかったのに加えて例年よりも開催時期が遅くなってしまっていたので、受験のことも鑑みて参加するかどうかは部員個人に委ねると伝えられた。そのことを部員たちに伝え、参加の意思があるかどうか一人ずつ聞くのも部長としての役目であった。一通り参加の意思を聞いた結果、K73の11人の内3人にはそれがなかった。一応進学校であり全員の意思が統一されているわけではないことは分かっていたが、ずっと一緒にやってきた仲間と最後まで走り抜けられないという事実を突きつけられたとき、私は受け入れることが難しかった。自分の気持ちを納得させるためにその後3人と電話を重ね、意見をぶつけて話し合った。結局彼らの意思を変えることは叶わなかったが、K73全員でのミーティングで3人から残りのメンバーに対してエールをもらい、彼らの想いを背負って試合に臨むという形で折り合いをつけた。

やっと訪れた夏大本番の日、声援や吹奏楽部の演奏がない中でも私個人の感想としてはとても楽しく充実したものであった。というのも、2年生の12月以降、練習試合を含め試合を行っておらず約8ヶ月ぶりの実戦だったのだ。結果としては8回コールドを喫してしまったが結果以上に楽しかったという印象が強くある。

私たちの夏は不完全燃焼で終わってしまったが、人生は全てうまくいくものではないと高校3年生にして少しだけ理解することのできたいい経験だと思っている。うまくいかない中で折り合いをつけ、その中で最大限自分の力を発揮していくことがこれからの自分の人生において大切なことだと学ぶことができた。私たちの代は大学野球を続けている者はいないが、各々違う形でこの稀有な経験を今後の人生に活かしていけたらと思う。

K73 田中 陸斗